

〈復刊 8 号〉

【部内資料】2018 年 6 月 12 日発行

★★★★★★★★★★★★★★

栃木県労連 NEWS

★★★★★★★★★★★★★★

発行者 栃木県労働組合総連合（略称 栃木県労連）

〒321-0138 宇都宮市兵庫塚 3-10-30 E-mail: roren.office@totigi.org

TEL: 028-653-1401 FAX: 028-653-1579

全労連関ブロが「仲間ふやし交流会」を開催

全労連関東甲信越ブロック（関ブロ）は、5 月 27～28 日の 1 泊 2 日の日程で、「仲間ふやし交流会」を群馬県・伊香保温泉で開催しました。この集会は、昨年まで「オルグ養成講座」と呼ばれていましたが、今年から名称を変更しての開催となりました。

関東甲信越 10 都県のうち 9 都県から約 50 名が集まり、「つながり」をつくることの意義や「担い手」を育成することの難しさなどを交流し、全労連「新 4 か年計画」の実践をやり抜く決意を固めました。

栃木県労連からは近藤事務局長が出席し、栃木の現状などを報告しました。

雨の中、怒りの国会包囲！

6 月 10 日（日）、次第に激しくなる雨の中、総がかり行動実行委員会などが呼びかける国会包囲行動が行われました。各野党の代表、学者の会や市民団体のメンバー、過労死遺族などが次々とスピーチに立ち、「安倍首相には憲法を語る資格など無い」「高プロ（残業代ゼロ法案）は廃案に」など、口々に訴えました。

行動の最後に全労連の小田川議長（総がかり行動実行委員会共同代表）が、「安倍政権を終わらせるまでたたかい続けよう」と力強く行動提起を行い、27,000 人の参加者が、雨を吹き飛ばすような勢いで「安倍は辞めろ！」などのコールを行ないました。

県労連からは近藤事務局長ほか 3 名（加盟単産の参加者を含む）以上が参加しました。

夏季合宿（労働学校、わくわく講座開講式）の講師決まる

既に第 7 号でお知らせしたとおりですが、7 月 21 日（土）午後～22 日（日）正午の日程で標記の集会を開催します。全労連関東甲信越ブロック（関ブロ）に依頼していた講師は、関ブロ副議長の本原康雄氏（千葉労連議長）に決定しました。

また、21 日には、県労連の支援によって和解が成立した過労死遺族の方からの報告もいただく予定になっています。

改めて、多くの組合員の参加を呼びかけます。全日程参加はもちろんですが、1 日だけ、あるいは宿泊を伴わず両日の参加も歓迎します。全労連「わくわく講座」の開講式及び第 1 章の学習を兼ねますので、受講者は必ず参加するようにお願いします。

祖父は二人いるはずだが……

改憲への執念を燃やす安倍晋三首相。彼にとってはどうやら「祖父の遺志を継ぐ」ことがライフワークらしい。この「祖父」というのは、日米安保条約改定を強行し60年安保反対闘争の引き金となった、岸信介元首相のことである。

人間は単為生殖できないはずなので、誰にも祖父は二人いる。父方、母方、それぞれいる。事情によっては「誰だかわからない」などという場合もあるが、本人の父親と母親にそれぞれ遺伝子を継承した人という意味では、必ず存在していたはずだ。

安倍晋三首相の父親は、ご存じの通り、安倍晋太郎氏である。農林、通産、外務などの大臣を歴任した政治家だ。そして母親の安倍洋子氏は、岸信介氏の長女である。安倍晋三が「祖父」というのは、母・洋子氏の父親にあたる岸信介氏である。

ところが安倍晋三は、父方の祖父（安倍晋太郎氏の父親）については、ほとんど言及しない。少なくとも私は見聞いたことがない。しかし、誰だかわからないわけではなく、むしろ地元なら知らない人はいないほどの、立派な経歴を持つ有名な人物である。

安倍晋太郎氏の父親は、安倍寛^{かん}という。1894（明治27）年、山口県大津郡日置村（現在は長門市）生まれ、旧制第四高等学校を経て東京帝国大学法学部を卒業、日置村長、山口県議会議員、衆議院議員などを務めた政治家だ。公言できないような過去の持ち主ではなく、むしろ誇りにしても良い立派な経歴である。

安倍寛氏が無所属で衆議院議員に初当選したのは1937（昭和12）年、日本が急速に戦争に向かって突き進んでいる時期である。この時代にあって安倍寛氏は非戦を唱え、1938年の第一次近衛声明（日中戦争に関して、蒋介石政府との和平交渉の放棄）に反対する。続く42年の翼賛選挙においては、東條英機らの軍閥政治を厳しく批判し、大政翼賛会の推薦を受けずに立候補、当選を果たす。そして三木武夫（後に首相）らと共同で国政研究会を創設し、東條内閣退陣、反戦、戦争の早期終結などを主張した。

また、大政党の金権腐敗を批判するなど清廉潔白な人格者として知られ、「大津聖人」「昭和の吉田松陰」などとも呼ばれた。残念ながら1946（昭和21）年に急逝し、戦後政治に携わる機会はなかったが、死後も高く評価されていた。実を言えば、岸信介氏も彼を高く買っており、娘と安倍晋太郎氏との結婚話が持ち上がったとき、「大津聖人の息子なら心配ない」と言ったとも伝えられる。

さて、聖人とまで言われ、反戦を貫いた気骨ある政治家の安倍寛氏について、安倍晋三が触れないのはなぜだろうか？ 「金権腐敗を批判する清廉潔白な人格者」で「非戦を主張」する祖父が、それほど気に入らないのだろうか？ 尊敬する母方の祖父・岸信介氏が高く評価していた父方の祖父を、彼はどう評価しているのだろうか？

相容れない考え方を持つ人は、身内であれ徹底的に排除する。そんな安倍晋三の姿勢が、ここにも表れているのではないだろうか。

（栃木県労連事務局長 近藤康弘）